

人口当たり蔵書が1冊増えると、
要介護リスクが〇%低下する！？

図書館がつなぐ まちの健康と人の輪

—社会的処方の入口としての図書館—

近年、大規模な調査研究から、図書館が地域住民の健康に良い影響をもたらす可能性が明らかになってきています。本を借りる・読むといった利用だけでなく、「図書館という“場”そのもの」が、孤立の予防や相談のきっかけづくり、活動参加を後押しする“社会的処方”の役割にも注目されています。本イベントでは、図書館と健康に関する研究の第一人者である佐藤豪竜先生をお招き、図書館と健康の関係を示す最新エビデンスを学びます。

また「場」としての図書館の可能性について参加者と共に探ります。

2026年

2月5日 木 14:00-17:00

会場：名張市立図書館すなお

参加費
無料

14:00～15:00

1 まちに図書館があると健康につながる！？ 大規模調査から見た図書館と健康の関係

15:05～15:35

2 レトロ可愛い！？ 名張市立図書館ツアー

15:40～17:00

3 図書館を“まちの健康拠点”にする アイデアワークショップ



専任講師
総合政策学部
慶應義塾大学

佐藤 豪竜 先生

経済学博士、公衆衛生学修士。専門は社会疫学、医療経済学。東京大学経済学部を卒業後、厚生労働省に入省。保険局、老健局、総理大臣官邸等で12年間社会保障政策の企画立案に携わる。ハーバード大学公衆衛生大学院に留学後、京都大学を経て、現職。1986年生まれ、北海道札幌市出身。

主催：みえ社会的処方研究所

共催：ちいかけん / 名張市教育委員会（名張市立図書館）

後援：一般財団 法人オレンジクロス

お問い合わせ：TEL)070-4308-0959

メール：mieshohoken2020@gmail.com

参加申込は、お申し込みは専用フォームから！

